

自己実現 自主自立 本物の笑顔のために

# 東の風



平戸市立田平東小学校  
学校便り

やさしく  
かしこく  
たくましく

## No.89

平成29年3月8日(水)

文責：園田

### 学校教育目標：心豊かで自ら学びたくましく生きる子どもの育成

今朝、子ども達の登校時、校門下で立哨指導をしていると、なんとほんのかすかですが雪がちらつきました。風もあり久しぶりに寒い朝でした。春が近づき、少し薄着になっていた子ども達も寒そうな表情を浮かべた登校風景でした。



昨夜は久しぶりにテレビで野球を観ました。WBCの日本対キューバ戦です。日本代表にもキューバにも好プレイが見られ、それなりに楽しめました。

さて、野球と言えば「高校野球」と言う方も多いと思います。よくテレビで見かけるのですが甲子園に出場する球児たちヘインタビューが行われた時、昨今、選手たちから次のような趣旨の言葉を聞くことがあります。

「応援してくださる方に、感動を与えるプレイをしたいと思います。」

実は、私はこの類の発言があまり好きではありません。なぜかと言えば、「感動を与えるプレイ」という言葉が気になるのです。高校野球を見て、「感動を覚える」瞬間があります。みなさんにもあるのではないのでしょうか？でもそれは、選手が「感動を与えるプレイをしよう」と思ってプレイしたから人が感動するのではないでしょう。

「感動を与えるプレイ」というものが最初から形としてあるのではなく、あくまで、選手達が「真剣に、そしてひたむきに、一生懸命に、最後の一球、最後の瞬間まであきらめず、自分の努力の成果として全力を出し切ろうとする姿」があり、プレイにそのことを強烈に感じるからこそ、そこに感動を覚えるのではないのでしょうか？

あらかじめ感動を与えようと思うのではなく、真剣に全力を出し切った結果として、人が心を動かされる、感動するのだと思っています。

ですから、前述したような発言はあまり好きではないのです。自ら「人に感動を与える・・・」ということを経験するのとは何かおこがましいような気がするのです。これは高校野球だけでなく他のスポーツや他のスポーツ以外の活動でも同じです。



もちろん、選手たちはそんなつもりで言っているのではないと思います。「一生懸命に頑張りたい」ということを表現したいだけだとは思いますが。

私が何が言いたいのかと言うと、

**「物事に真剣に、そしてひたむきに、一生懸命に全力を出し切ろうとする姿こそが、人の心を動かす。」**

ということです。

来週、3月17日(金)には、本校の卒業証書授与式を行います。

その主役はもちろん6年生。子ども達にとって本校で過ごしてきた6年間の最後の一日、最後の授業、最後の活動になります。

その場には、育ててくださったお父さん、お母さんをはじめとする家族の皆さん、見守り支えてくださった地域の方々、在校生の子ども達、そして先生方がいます。



その前で、6年生の子ども達には、自分自身の「本物の笑顔」のために、真剣に集中し、全力を出しきって、悔いのないような満足感をもって、立派に成長した自分の姿を、堂々と誇らしげに見せてほしいと思います。お世話になった感謝の気持ちや、未来への夢や希望、そして決意。身に付けた力をもとに、それらを全力で声に出し、言葉にして、歌声にして、そして態度や行動で表し、伝えてほしいと思っています。

昨日、寒さで冷え込んだ体育館の中で、卒業式の全体練習を行いました。1年生から5年生までの在校生。6年生の為に・・・表情が引き締まっていました。集中した立派な態度でした。気持ちのこもった声の言葉が響きました。在校生の「一生懸命に全力を出し切ろうとする気持ち」が伝わってきました。

主役の6年生・・・練習後、私は6年生に「総練習は2日後、そして最後の日、卒業式まで10日です。残り少ない日々をどう過ごして、どう卒業式を迎えるか、しっかり考え直して過ごしてほしい。」と話しました。

そしてその後、総練習(総合練習)の延期を決め、先生方に伝えました。6年生の奮起に期待します・・・。